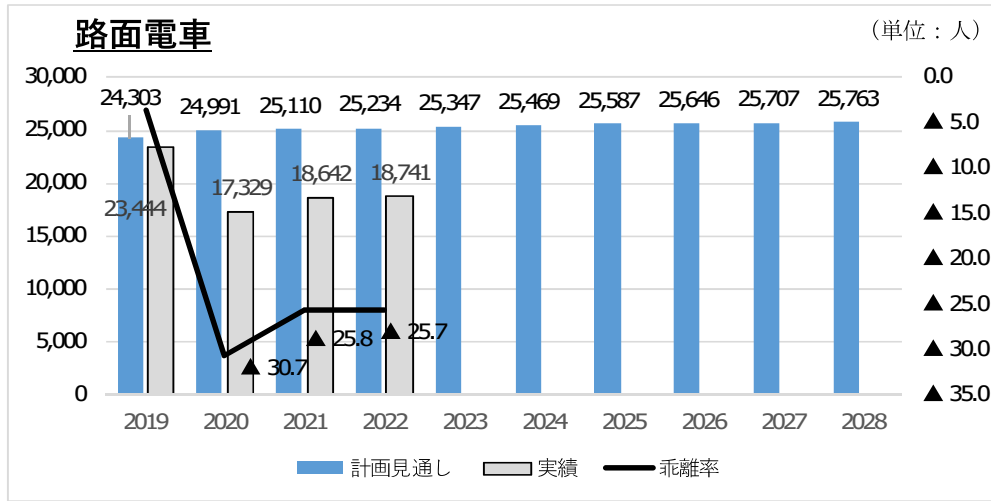


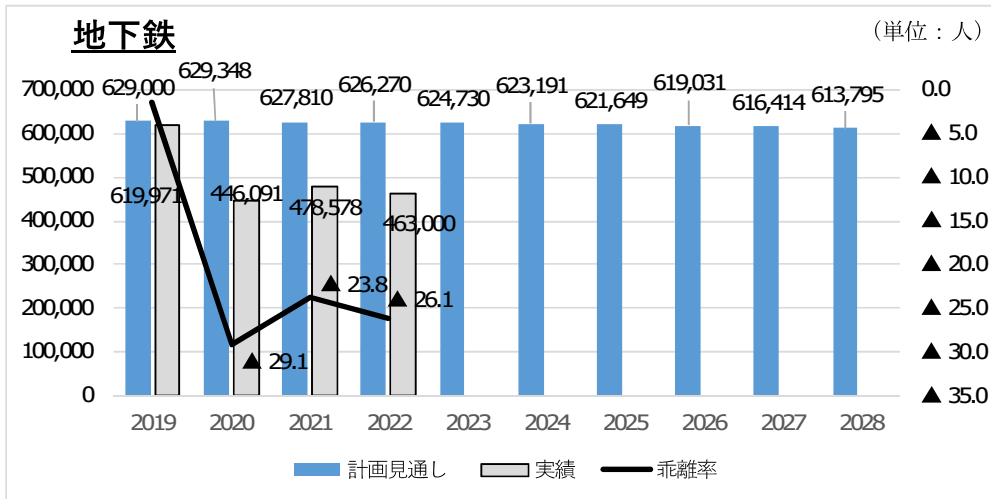
# 交通事業経営計画（2019～2028）の進捗状況について

2023. 1. 25 ■交通局

## 1. 乗車人員の計画との乖離状況（1日平均乗車人員）



※実績人数は、2019～2021は決算ベース、2022は予算ベース



※実績人数は、2019～2021は決算ベース、2022は予算ベース

## 2. 収支目標の計画との乖離状況

路面電車 (単位: 百万円)

■経営計画 収支目標	令和3年度時点		進捗状況	
	経営計画	決算		
① 経常収支	2026年度に黒字化	△141	△297	×
② 資金過不足額	資金不足を発生させない	104	589 (△26)	△
③ 企業債残高	4,500百万円以下に抑制	3,381	2,809	△

地下鉄 (単位: 百万円)

■経営計画 収支目標	令和3年度時点		進捗状況	
	経営計画	決算		
① 経常収支	計画期間平均79億円以上の黒字	9,100	2,240	×
② 累積欠損金	△1,400億円以下まで縮減	△193,385	△208,358	×
③ 企業債残高	2,070億円以下まで縮減	225,959	231,653	×
④ 資金過不足額	実質資金不足※を2027年度に解消	△46,050	△61,760	×

【△の理由】  
・資金不足の解消が一般会計からの長期借入が前提であるため  
( )内は長期借入がない場合

【△の理由】  
・事業の遅れの影響であるため

☑路面電車、地下鉄ともに、乗車人員の減少に伴う大幅な減収により、現在の経営計画の収支目標の達成は、困難な状況。

⇒令和5年度末を目標に経営計画を改定予定。

### (参考) 主な事業

※実質資金不足とは、資金過不足額から過去に借り入れた資本費負担緩和分企業債及び特別減収対策企業債の未償還額を差し引いたもの

区分	事業内容	達成目標	状況
地下鉄	地震対策の推進	真駒内駅 南北線高架部シェルター	2020年に完了 距離の短縮等、平準化しながら継続実施
	トイレの洋式化等	各年度3駅実施	各年度2駅に変更し継続実施
	案内表示等の多言語化	車内表示器 (2023年度末までに全車両)	2022年度末で全44編成のうち、37編成実施見込み(実施済率84%)。2024年度までに完了予定
路面電車	上下分離の導入	2020年4月導入	2020年導入済み
	車両基地の改良	2024年度完了	2026年度に完了予定
	低床車両の導入	計画期間中14両導入	計画通り導入している